

授業科目名 (英文表記)	地域づくり戦略論D (Strategic regional/community management D)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義、実習
担当教員	藤田 武弘		
実施場所	秋津野ガルテン (和歌山県田辺市上秋津4558-8)		
実施日・時間	下記「授業計画」のとおり	区分	学部開放科目

【講義概要】

地方創生が叫ばれる昨今、農山村再生手法として注目を集める都市農村交流では、農作業や農村での生活体験を共有することにより「もてなしを提供する側と享受する側とが、対等・互恵の人間的な関係に立って、相互に喜びを共有する精神性(ホスピタリティの精神)」に基づく関係性を構築することが重要である。本講義では、「都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成」をテーマに掲げ、①戦略的地域づくりのための理論、②先進地の「地域づくり・人材育成」実践、③地域資源を活用した「6次産業化」と地方創生、④都市農村関係の変化と新しいツーリズム、⑤日本農業の行方と農山村再生の戦略、の5つの視座から農山村における地域づくり戦略を考える。

【授業計画】

- 〈視座1：戦略的地域づくりのための理論〉2018年10月6日-7日(土日)
 【01】地域づくりの経済学～地域内再投資力論序説～(岡田知弘：京都大学)
 【02】協同組合の現代的価値(岸上光克：和歌山大学)
 【03】中山間地域問題の可視化(有田昭一郎：島根県立中山間地域研究センター)
- 〈視座2：地域づくり・人材育成実践の成果に学ぶ〉2018年10月27日-28日(土日)
 【04】地域経営のための合意形成と組織づくり(玉井常貴：株式会社 秋津野)
 【05】農工商連携とコミュニティビジネス(木村則夫：株式会社 秋津野)
 【06】域学連携とコーディネーターの役割(藤井至：和歌山大学)
- 〈視座3：地域資源の活用と地方創生〉2018年11月17日-18日(土日)
 【07】地域産業や働き方から考える地域デザイン(松永桂子：大阪市立大学)
 【08】紀伊半島民家の地域性と多様性(平田隆行：和歌山大学)
 【09】地域固有性を活かした地域づくり(中塚雅也：神戸大学)
- 〈視座4：都市農村関係の変化と新しいツーリズム〉2019年1月12日-13日(土日)
 【10】都市農村関係の変化と日本型グリーンツーリズム(藤田武弘：和歌山大学)
 【11】地域と共に歩む都市農業の新たな展開(加藤義松：全国農業体験農園協会)
 【12】産直活動を通じた都市農村交流(宇田篤弘：紀ノ川農業協同組合)
- 〈視座5：日本農業の行方と農山村再生の戦略〉2019年2月2日-3日(土日)
 【13】日本農業の後継者問題(山本淳子：農研機構)
 【14】地域サポート人材からみた農山村再生の課題(岡司直也：法政大学)
 【15】世界の食料問題と日本農業(内藤重之：琉球大学)

【到達目標】

本学では「域学連携」の観点に基づく地域での多様な実践型教育・研究が行われている。本講義の受講者が、それら地域での実践的な学びを自ら深めていくことを期待したい。なお、本講義は江頭ホスピタリティ事業振興財団の「寄付講義」として開講されることから、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響等の教育効果の検証を行う予定である。

【教科書・教材】

毎回レジュメ・資料を配布する。

【参考書】

- 橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編『都市と農村－交流から協働へー』日本経済評論社、2011年。
- 藻谷浩介・NHK広島取材班『里山資本主義』角川書店、2013年。
- 岸上光克『廃校利活用による農山村再生』JC総研ブックレット、筑波書房、2015年。
- 小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波新書、2015年。
- 藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房、2018年。

【授業時間外学習】

本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する課題に調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。

【履修上の注意・メッセージ】

地域の再生は、一朝一夕に叶うものではない。常に「現場(実態社会)が先生」であるという謙虚さと熱意をもって、社会人などの多世代の人々とともに地域の悩みを共有しながら根気強く問題解決に取り組もうとする受講生を歓迎する。なお、週末の土曜日開催(土曜日2講/日曜日1講とまとめ)というスタイルの講義以外に、オプションで関連するフィールドワーク(現地視察や農家民泊・農作業研修など)が提供されるので、これにも積極的に参加してほしい。